

在学生紹介

研究、スポーツ、趣味、特技... 学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなキラリと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。

松本 亮

MATSUMOTO RYO

マッチングプログラムコース2年



インターナショナルスクールの実験室▲

国際バカロレア入試でMPコースに入学

学部や学科の枠にとらわれず、自分にあったプログラムを

「将来は英語力と国際性を生かし、専門分野で働きたい」と話すのは、岡山大学に国際バカロレア入試で入学した松本亮さん（マッチングプログラムコース2年）。松本さんは、高校時代3年間をオランダのインターナショナルスクール（国際学校）で過ごし、2012年4月、岡山大学のマッチングプログラムコース（MPコース）に入学した。インターナショナルスクールでは、生徒が40か国以上から集まっており、授業もすべて英語で行われ、「世界の縮図のようだった」という。

松本さんは高校2年生まで日本で過ごした後、オランダのインターナショナルスクールに1年生から入学し3年間学んだ。日本の高校ではもともと文系だった松本さんだが、オランダでは、教科書に載っている実験をすべて

行うことができ、理系のおもしろさに気付いた。文系と理系の両方に興味を持ちながら、日本での大学進学を考える松本さんに、担任の先生が勧めたのが岡山大学MPコース。学部や学科の枠にとらわれず、自分自身にあった履修プログラムを作成して学ぶことができるという独自の教育プログラムに、松本さん自身も魅力を感じた。また、松本さんが受験する年、岡山大学が日本の国立大学で初めて国際バカロレア入試を取り入れたことも大きな後押しとなり、MPコースに出願。見事合格を勝ち

取った。現在は、農学部や理学部などで生物系の学問について学んでおり、「MPコースの16人は文系の枠を超えて様々な学生が集まっているので、いろんな考え方を知ることができているのが魅力だ」と語る。興味のある学問を好きなだけ学べるというMPコースならではの醍醐味を満喫している。

オランダでの経験を生かし、ボランティア活動にも力

また松本さんは、岡山大学の学生や教職員を中心に、被災地への復興支援を行う団体「おokayまバトン」の副代表を務めている。おokayまバトンは、「息の長い復興支援」を目的とし、被災地から遠く離れた岡山で、学生らしい「被災地支援の在り方を考え、毎週20人ほどで会議を行う企画を考えている。

おokayまバトンに入るきっかけになったのは、高校時代の経験。オランダの高校は卒業要件としてボランティアが組み込まれており、決められたプログラムの中で行っていたボランティアであるものの、「やっているときは大きな充実感があった」という。



その経験から、岡山大学に入学してからもボランティアがしたいと思い、おokayまバトンで活動し始めた。

松本さんは、副代表としてみんなをまとめなければならぬプレッシャーを感じながらも、「同じことの繰り返しではなく、今までとは違う新しいことかもしれない」という思いを持って日々、活動に取り組んでいる。「新しいことをするには大きな苦労があるが、だからこそ達成感を味わえる」と語る松本さんの表情には強い意志が感じられる。この冬も、宮城県の中学生を1週間受け入れるプログラムを企画し、成功させようと意気込んでいる。

国際バカロレア入試

国際バカロレア機構が定める国際的に標準化されたカリキュラムを履修し、最終試験に合格した者に与えられる大学入学資格「国際バカロレア資格 (International Baccalaureate Diploma)」取得者を対象に、書類選考のみ（一部学部・コースを除く）で入学資格を与える入試。岡山大学では、平成24年度入試から「国際バカロレア入試」を実施。全国の国立大学に先駆けて国際バカロレア資格取得者を積極的に受け入れることで、教育目標の柱の一つである「異文化理解に基づいた国際性の獲得」の資質とともに、優れた学力を備えた学生の確保・育成を目指している。



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
文学部人文学科2年
岡村 優衣



▲オランダのアムステルダム市街地

